

(1)

問一 ㊶ 隔離 ㊷ 冗談 ㊸ 訴訟 ㊹ 抵触 ㊺ 視座

問二 アフリカの仕立屋の就業現場においては、新人の修業の過程で技術不足による失敗がもたらすコストが、リサイクルの対象として有効活用されることで、現場学習が成り立たないという問題が回避され、新人の失敗が許容される特別な猶予空間が形成されているということ。

問三 医療や人命に関わる日常の実験における失敗に対して、現在では時間的制約、経済的制約、および法・倫理的制約といった社会的制約が強くなっており、失敗がもたらすコストを抑えながら、一方で学習者の技術向上をはかるという課題は解決が急がれる問題であるということ。

問四 日常的現場での社会実験は、一般社会を直接巻き込んだものとして社会的制約を強く受けながらも、社会実験が一般化するにつれて様々な形で緩和され、社会が実験という概念を前進のための必須の手続きとして受け入れてきたことで、促進されるようになってきたということ。

(2)

問一 ㊶ まめつ ㊷ そな(え) ㊸ ゆいしよ/ゆうしよ

㊹ そぼく ㊺ いこ(わ)

問二 石仏といっても脆い焼石で、その石も欠けていて、笹むらの中で苔が半身を覆った状態で右手を頬にあてて頭を傾げる姿は、仏像の思惟像の様式の一つと呼ぶに程遠く、無心な様子に親しみとなにげなさを感じさせるから。

問三 村びとは石仏が思惟像の様式などとは知らず、指先で頬を支える姿から歯痛に御利益があると勝手に思い込み、信仰の対象としたから。

問四 浜田博士やその他の学者の論文を読んで、石仏がガンダラの樹下思惟像に通じていると知り、石仏を通して私は、無意識にはるか遠いガンダラの像に心惹かれていたのではないだろうかと考えるようになり、ぶざまな石仏から心充たされる樹下思惟像として見るように変化した。

問五 仏像の由来を知らない子どもが石仏に親しみを感じて路傍の花を供えるのは許容できるが、大人たちが指先で頬を支える思惟の相を知らないままに突拍子もなく歯痛に御利益があると考えて、お線香やちゃんとした花を供えるなどして俗な信仰の対象にしていることに納得できない思いを抱いているから。

(3)

問一 ① きっかけともなるに違いない

② 深く覚悟を決めていたことなので

③ 心の中はいつもと全く変わらさず

問二 放火

問三 人は誰しも死ぬ運命であるが、特に若いお七の処刑は不憫だったという事。

問四 叶わぬ恋のために放火という大罪を犯したのは許しがたいが、若い娘の一途な姿には同情的であった。

問五 (1) 人形浄瑠璃・歌舞伎など

(2) 世間胸算用・好色一代男など

(4)

問一 ① なんぢ(なんじ) ② なかれ

問二 別跪に戮せられ、以て社稷を辱む。

問三 過ちについて、下の者から率直に言われないのは暗愚な主君であり、逆に、賢明な主君であれば、下の者からはつきりと指摘される。今回、政を行う場に、身なりを整えず、分に過ぎた馬車に女性を乗せて向かおうとするような礼に背き驕り高ぶった行為を、門番がはばかりることなく諫めたということは、景公が立派な主君である証拠だから。

問四 どうか門番に褒美を与えることで、景公ご自身が善を好む者である

ことを明らかにし、その門番を礼を尽くしてもてなすことで、景公ご自身が諫言を受け入れる主君であることを明らかにしていただきたい。